

# シニアフレンズ福岡

## SENIOR FRIENDS FUKUOKA NEWS

最近、学校や児童会館へ行く機会が増えた。「シニアフレンズ福岡」のボランティア活動取材のためだ。人形劇や紙芝居に歓声を上げる底抜けに明るい子どもたちを見てみると、子どもは今も昔も変わらないと思う。

とはいえ核家族化と伝統的な地域社会の崩壊は、異世代間の断絶をもたらしている。子どもは祖母のこことを知らず、祖父母は孫世代と接触する機会を失っている。社会は徐々に求心力を失いつつあるように見える。伝統的地域社会の復活をめざすあらゆる努力も、結局のところ徒労に終わるだろう。

その一方で、近年ボランティア活動が急速に広がっている。それはだれに強制されるでもなく自然発生的に、社会の

### ボランティア活動で 子どもと触れ合おう!

あらゆる分野で生まれている。人間は困難を前に助け合って生きてきた。それは人間の本性だ。これからもそうだろう。平成七年一月、阪神大震災に際し、全国の救援ボランティアがあつという間に駆けつけたことが思い出される。

ボランティア活動の静かなうねりは、社会が求心力を回復しつつある兆候に思われてならない。かつて伝統的地域社会が果たしていた互助の機能は、ボランティア活動の豊かな発展のあなたに、はじめて再生されるにちがいない。

○ シニア世代の皆さん! 「シニアフレンズ福岡」に参加して、自分にふさわしいボランティア活動を始めませんか。皆さんからのご連絡を待っています! (R)



「シニアフレンズ福岡」事務局の所在地 (中央市民センター内)

### もくじ

- ・ボランティア活動で子どもと触れ合おう! … 1
- ・古文書解読ボランティア養成講座 …… 2
- ・グループ「人形劇団ピンコピン」の紹介
- ・【取材】ボランティアの活動紹介 …… 3
- ・ボランティアを呼んでみませんか。
- ・あなたもボランティア登録しませんか?
- ・寄稿「ボランティア活動のやりがい」 …… 4
- ・ボランティア活動交流会及び発表会の案内

# 不思議と読めるようになる！

## ムツカシイ古文書

### 「古文書解読ボランティア養成講座」

本講座は、たんに古文書の読解力を養うだけでなく、地元に残る史料(古文書)の活字化を通して、地域文化の発展に貢献できる人材の養成を目的として実施している。

開講初日の昨年十月十四日、初心者ばかりの受講者約七十名が集まった。やる気とともにどこかしら不安気だった受講者も、年が明ける頃には、コツがつかめてきたようになり上達している。

三月まで月二回、全十二回。福岡藩の幕末期の古文書(藩士の書翰や記録類)の読解に挑戦している。古文書と聞けば、小難しいものと敬遠されがちだが、さにあらず、活字に慣れている現代人の目には、生き生きと力強い、個性あふれる筆文字は、かえって新鮮で、何が書かれているのか興味をそそられる。

しかもテキストに使われている古文書は幕末の動乱を生きた地元藩士の残したものであるからなおさらである。一年もやれば当初の不安もどこへやら、不思議と読めるようになるのである。講師いわく「日本人が書いたものが読めない訳がない」といったくらいの気持で頑張りましょう！

「歴史はあらゆる文化の源泉である」。しかし史料なくして歴史は語れない。福岡地区には藩主黒田家の文書をはじめ多数の貴重な古文書が図書館、博物館、民間旧家に残されている。しかし活用されなければ意味がない。

本講座の受講者が、地元古文書の広範な活用のため、翻刻ボランティアとして活躍されることが大いに期待される。



平成21年1月27日の受講風景  
(福岡市立中央市民センター・実習室)



福岡の幕末志士平野国臣が、長州藩の白石正一郎・廉作兄弟へあてた書翰。文久3年(1863)6月24日付。脱藩する同志の堀六郎をかくまってくれと依頼したもの。

#### 講座テキストの紹介 (一部)

- 月形洗蔵の藩庁あて書面
- 三条実美の月形洗蔵あて書面
- 黒田長溥の徳川慶勝あて建議書
- 中村円太の筑紫衛あて書翰
- 黒田長溥の瀧田茂吉あて書翰

### 読売新聞 (2008年11月24日付朝刊25面)

**スポットライト**

福岡市のシルバーカレッジ

62〜85歳のメンバー13人をまとめ、福岡市の小学校の留守児童学級や公民館などで、公演を行っている。「人形の動きやセリフに喜ぶ子どもたちの反応を見るのが楽しくて」と笑う。

「3匹の子豚」など4種。環境問題などを取り入れたオリジナル作品も考案中で、「学校での環境学習などの時間に、呼んでもらえるような劇になれば」と話す。

メンバーを募集中で、問い合わせは同センター(092・714・5521)へ。  
(福岡市西区姪浜駅南)

人形劇団「ピンコピン」代表 古賀 興三さん 65

で人形劇を学んだ受講生を中心に、2007年に劇団を結成。第2、4水曜に、中央市民センターで練習し、07年は7回、今年はいくつかの公演をこなした。

使用する人形もメンバーによる手作り。レパートリーは「3匹の子豚」など4種。環境問題などを取り入れたオリジナル作品も考案中で、「学校での環境学習などの時間に、呼んでもらえるような劇になれば」と話す。



**メンバー募集中!**

「シニアフレンズ福岡」の「人形劇団ピンコピン」の活動が、「読売新聞」で紹介されました。小学校や公民館などの依頼を受け、元気な子どもたちを相手に楽しく活動しています。



ボール作りのお手本を参加者に見せる  
ハンドメイドシニアクラブのメンバー

一月十五日(木)午後十一時から、「ハンドメイドシニアクラブ」のメンバー(大神愛子・熊田もと子・佐伯富美子・疋田彩子の四氏)が、中央区子どもプラザ(市立中央児童会館の三階)で、牛乳パックを使ったボール作りを教えた。

同プラザは、乳幼児とその家族が絵本や遊具類で自由に無料で遊べる場所。スタッフ二名が常駐している。月一回程度、子育て相談会やミニ講座などを実施している。「ハンドメイドシニアクラブ」への依頼は、今回が初めて。参加者約三十名。

あらかじめ必要な箇所に線を引いた紙パックが配られ、「ハンドメイドシニアクラブ」にならってハサミを入れ、必要な部分を折り曲げてゆくと、だんだん球形に近づく。その中に紙でくるんだ小さな鈴を入れて、ホッチキスとボンドで最後の部分をくっつける。あとは表面に好きなシールをはったり、名前を書いたら出来上がり。

子どもたちは母親が作るのに興味津々。転がしたり、上下に動かすと、可愛い鈴の音が鳴る。日常のありふれたモノが、意外な小物に変身した驚きは、幼心に自ら創意工夫する精神を植えつけるようだ。

**ハンドメイドシニアクラブ**

**牛乳パックで可愛いボール作り**

中央区子どもプラザ

**思い出よみがえる唱歌**

特別養護老人ホームあおぞら



唱歌「たき火」を合唱する「夢エンタークラブ」

一月二十八日(水)午後一時五十分から、大武晃・大神愛子・森田薫・重松宏の四氏が、特別養護老人ホームあおぞら(早良区城西二丁目)で、手品・皿回しなどを披露したあと、入所者と一緒に童謡唱歌をうたって過ごした。

まず、大声で発声練習をしたあと、「青い山脈」を歌い、リラックスする。BGMに「シナの夜」が流れる中、手品が始まる。空っぽの紙袋から色とりどりのハンカチが次から次へ出てくるかと思えば紙袋に入れたハンカチが、バナナとなって出てくる。

「雪」「たきび」「うさぎとかめ」「ふるさと」などの唱歌を正面に掲げた歌詞を見ながらみんなで歌った。続いて軽妙な語り口で、皿回し、ヒゲダンスなどを披露、会場はなごやかな空気に包まれた。「あおぞら」では、近所の幼稚園児を招くこともあるという。童謡唱歌やお手品、指遊びなど、ボランティアと一緒にやれるのが喜ばれるという。

久しぶり唱歌を聞き、入所者ならずとも、昔のことが思い出された。ドクターによると、人間にとって過去を振り返り自分がたどった人生を確認することは、心の安定を得るうえで非常に大切なことだという。

**夢エンタークラブ**

「今日の日は、さようなら」の歌で最後をしめくくった。

**ボランティアを呼んでみませんか?**

「シニアフレンズ福岡」は、ボランティア派遣を希望される方へボランティアを紹介いたします。お気軽にご相談ください。

「シニアフレンズ福岡」に登録するボランティアの中から、ご希望にふさわしいグループや個人を紹介します。

交通費等の実費が必要です。詳しくは、下記までご相談下さい。

**【問合せ先】**

「シニアフレンズ福岡」実行委員会事務局  
(福岡市立中央市民センター内)  
Tel(092)714-5521  
FAX(092)714-5502

**あなたも、ボランティア登録しませんか?**

**登録無料**

シニアの皆さん、自分の知識や経験、技能、特技をボランティア活動に活かしませんか?

「シニアフレンズ福岡」は、シニア世代のボランティア活動を支援するため、ボランティア登録制度を設けています。ボランティア活動を希望される方は、グループであれ、個人であれ、ご遠慮なくご相談下さい(登録料などの費用は一切不要です)。

「ボランティア登録申請書」に必要事項を記入のうえ「シニアフレンズ福岡」事務局へ提出してください(必要事項は①住所②氏名③生年月日④電話番号④ボランティア内容です)。

**【問合せ先】「シニアフレンズ福岡」実行委員会事務局**

## ボランティア活動のやりがい

寄稿

(ハンドメイドシニアクラブ)

足田 彩子

「シニアフレンズ福岡」(前身は「シルバーカレッジ」)に参加して早十年を過ぎます。六十歳を過ぎてもう一度新しい事に挑戦しようと思いい、「市政だより」を見て参加したのが始まりです。

六十歳を過ぎてから出会う仲間は、金銭に勝る宝である!と聞きました。今まで着古した洋服も、また新しい感覚で再利用し、何もお金を投資しなくても、生き生きと楽しく毎日を過ごしております。

長くつきあつた友達でも、お互い年をとると我を張り、自分の意見を相手に押しつけるか、あるいは言葉少なにただ相手に合わすだけ!しかしこの「シニアフレンズ福岡」で出会った友達は、どこかに共通の趣味をもち、それなりに生きて来られた方々の集まり、しかも年齢もほぼ一緒!「ああこの方とならこれからの挑戦を一緒に出来る!」。夢一杯のスタートでした。

「朝のジョギング、私はやっている!いやいや皆さん歩いていきます!」、私はこれが出て来る!と言うと「私もそれはやりました!」。決して反発するのではなくさらりとと言われる。全然今まで御会したことなかつた方々と、ただ一回の出会いで、「また御会いしましょう!」と言って別れる仲に!これは同じ趣味を持ち、同じ考えを持っている人間だからだと思ひます。

私たちのグループ「ハンドメイドシニアクラブ」は、ものづくり・リサイクルをボランティア活動の

メインにしています。決して新しい材料でなく、牛乳パック・ペットボトル・残布・包装紙・紙ヒモなど、たくさん捨てられてゆく資源、これらに手を加え、作品として生まれ変わらせています。生徒が先生!今は核家族の時代、一家の中に年寄りの姿が少なくなりました。私共はボランティア活動で、ある時は子ども達と一緒に楽しく物づくりをし、またある時はお年寄りの方々と一緒に手を取り合つてクリスマス会を楽しんだりしています。いずれ訪れる老後、しかしただじつと時間をつぶすのでなく、一緒に楽しみ、共に作品を作り、生きがいのあるひと時を過ごしたいと思つています。

なにせ、六十歳からスタートする「シニアフレンズ福岡」のメンバーですから、あつという間に減少してゆきます。病気になる方、つまづいて骨折する人、また御夫婦の方は老々介護で、どちらかがどうあつても自分だけ勝手もできません。しかしボランティア仲間がいると留守番もしてくれるし、共通の話題で話もはずみ、元気にニコニコ顔で生活されているようです。

六十歳を過ぎ、自由になる時間をお持ちの方!お待ち致しております。どうぞ、楽しい物作りのボランティア活動に是非ご参加下さい。そして地域でのボランティア活動に、日頃体験したことを還元していきましよう!子ども達も、おじいちゃん、おばあちゃんのお手を手を待っています。そして、いざれ迎えるであろう高齢の方々へ優しい声をかけ、一緒になつて折り紙など作りましよう。

「また来年この作品を飾りますよ!」と、出来上がったおひなさまを大切に持って帰られる高齢者の方々。皆さん、お会いすることに次回を楽しみにされます。自分も、その年齢に近づいているのに、自分の父や母を思い、手を貸して共に喜ぶ時、この活動に出会えて本当に良かったと思ひます。

ご来場 大歓迎!

入場無料

定員500席

「シニアフレンズ福岡」

## ボランティア活動交流会及び発表会

日時 平成21年3月10日(火)13:00~15:30

会場 福岡市立中央市民センター・3Fホール

「シニアフレンズ福岡」ボランティアの年一度の集まりです。中央市民センターホールの舞台上、各グループ(10グループ予定)が日頃の活動内容を披露します。人形劇・大道芸・オカリナ演奏などのほか、史跡案内活動の報告などバラエティに富んでいます。楽しく、ボランティア活動の一端をご覧いただけます。

またロビーでは、各グループの活動状況を掲示パネルで紹介します。ボランティアに興味のある方、ボランティアを呼びたい方、ほか一般の方の多数のご来場を歓迎します。楽しいひとときをお過ごし下さい!

【※ 会場位置図は、1面参照】

シニアフレンズ福岡 第三号

平成二十一年二月

編集発行

「シニアフレンズ福岡」

実行委員会事務局

〒810-0042

福岡県福岡市中央区二一五二一  
福岡市立中央市民センター内  
TEL(〇九二)七四一五五二二  
FAX(〇九二)七四一五五〇二